


令和元年度ほっかいどう元気なふるさとづくり交流大会の開催結果について

1 日 時：令和2年（2020年）1月30日（木）・31日（金）

2 場 所：TKP札幌駅カンファレンスセンター

3 開催概要

〈30日 講演13:30～15:00 事例発表15:15～17:15〉

区 分	内 容	参加者数
<p>講演 「heat up ～ +1℃する地域活性化～」 武田 昌大 氏 （(株) kedama 代表取締役）</p> 	<p>少子高齢化・人口減少率日本一の秋田の活性化をミッションとし、2011年、株式会社 kedama を起業。秋田の農業の未来に危機感を持ち、若手米農家集団トラ男を結成し、お米のネット販売サイトを運営。</p> <p>また、古民家を「村」と見立て、築130年の家に地域の人や外部の人達が混ざり合う新ビジネス「シェアビレッジ」を立ち上げる。人口減少の進む地方に必要な、都市の人々を巻き込む仕組づくりを行い、古民家で音楽ライブを開催する等、交流イベントの開催で地方と都市を結ぶ新しい田舎づくりを実践している。</p> <p>地域活性化には、地域にいる人の体温を1℃上げるよう意識することが大切。</p>	
<p>事例発表① 「あなた輝くまちテレビ道東テレビの挑戦」 立川 彰 氏 ((株) 道東テレビ 取締役) 【コーディネーター】 石塚 雅明 氏 ((株) 石塚計画デザイン事務所 顧問) 【コメンテーター】 武田 昌大 氏 ((株) kedama 代表取締役)</p>	<p>2015年にタウンプロモーション映像を作ったことがきっかけで津別町と関わりを持ち、翌年、津別町に地域おこし協力隊として移住。任期終了後は、インターネットテレビ局の株式会社道東テレビを立ち上げ、広報番組、ニュースやアーカイブス等を制作するとともに、現在は4Kでの撮影、発信を行っている。</p> <p>今後は、地域おこし協力隊と共に人、場所やそのメディアが残るような取組、関係人口の創出に取組む。</p>	65名
<p>事例発表② 「森町で40年暮らしてみた」 山形 巧哉 氏 (ハウモリ 代表) ※コーディネーター、コメンテーターは事例発表①と同じ</p>	<p>地元の高校を卒業後、森町役場へ入庁し、現在は情報システムを担当するとともに、内閣官房オープンデータ伝道師や総務省の地域情報化アドバイザーとしても活動。</p> <p>職業ではなく住民として、森町にITを落とし込む取組として「ハウモリ」を立ち上げる。住民が参加し史跡などを見学してウィキペディアに書き込むイベントがコンテストで最優秀賞を受賞。</p> <p>ITを使った次世代教育を町全体で行う必要があるという気運を高めているところ。</p>	
<p>事例発表③ 「テレワークで地方への人材回帰を実現！『サケ(鮭)モデルプロジェクト』」 松本 武 氏 (北見市 商工観光部 工業振興課 工業係 係長) ※コーディネーター、コメンテーターは事例発表①と同じ</p>	<p>地元志向の強い北見工業大学の学生を、首都圏のIT企業本社で採用し育て、北見進出時の人材として地元に戻りテレワークで働く「鮭モデル」を市として推進。街中の空き店舗を活用したサテライトオフィスには、「鮭モデル」の取組を実施している企業3社が進出。</p> <p>また、Uターンが見込める地元出身の大学生を対象に、ふるさとインターンシップなどを展開。総務省のふるさとテレワーク地域実証事業に取り組むなど積極的に首都圏から企業、人材を呼び込む。</p>	

〈31日 分科会9:00~10:50〉

区 分	内 容	参加者数
<p>第1分科会【移住】 川村 昌代 氏 (NPO 法人上士幌コンシェルジュかみしほる暮らし担当マネージャー) 【ファシリテーター】 石塚 雅明 氏 ((株)石塚計画デザイン事務所 顧問) 【アドバイザー】 杉岡 直人 氏 (北星学園大学 社会福祉学部 教授)</p>	<p>Uターンで上士幌町へ戻り、2011年からNPO法人上士幌コンシェルジュに勤務。生活体験モニター事業を通じた移住定住の窓口を担当し、10棟の体験モニター住宅の管理運営を上士幌町協力のもと実施。東日本大震災後は、子育て世代の利用が増えるなど体験者層が変わってきている。 移住者が増えている中、上士幌町に住んでいる「英語を話せる」「手話ができる」方などの人材の掘り起こしも重要なことと考えている。 すぐには成果が得られない事業だが、「観光以上移住未満を増やす」ことが課題と考える。</p>	12名
<p>第2分科会【女性】 堀田 悠希 氏 (株) at LOCAL 代表取締役) 【ファシリテーター】 松村 博文 氏 (地方独立行政法人北海道立総合研究機構北方建築総合研究所 副所長) 【アドバイザー】 井上 誠司 氏 (酪農学園大学 農食環境学群循環農学類 教授)</p>	<p>結婚を期に上士幌町へ移住・就農。お客様に身近な農家の仕組みづくりや農園の開放、マルシェを通して、農家としての在り方を模索。道の駅リニューアルオープンに合わせ、2017年に株式会社 at LOCAL を設立し、飲食事業を中心に全体の企画や商品開発を行う。 また、女性農業者が経営者として成長できるよう「とちかち若手女性農業者ネットワーク『農と暮らしの委員会』」を立ち上げ、女性農業者が自分の役割、生きがいを見つけ、お互いに情報交換を気軽にできるネットワークの創造を図る。</p>	13名
<p>第3分科会【若者】 村下 知宏 氏 (株) ユートライン 代表取締役) 【ファシリテーター】 原文宏 氏 (一般社団法人北海道開発技術センター地域政策研究所 所長) 【アドバイザー】 鈴木 聡士 氏 (北海学園大学 工学部生命工学科 教授)</p>	<p>東京都奥多摩町での地域づくり活動や地域づくりコンサルティング会社勤務を経て、浦河町にUターン。2013年に株式会社ユートラインを立ち上げ、地域、行政、都市を繋げる事業を展開。地域おこし協力隊の受入体制サポートや、地域内の団体・事業者の活動支援などに取り組む。 今後は「活動」から「事業」への移行をスムーズにする支援や、市民活動の基盤整備、地域を動かす人を増やすということを目的に、人材のマッチング、Uターンするキャリアの構築、地域づくりの担い手支援を行っていく。</p>	10名

